

令和 5 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1) (6)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 学部長 氏名 本山 昇

統括責任者 役職名 准教授 氏名 井澤 幸

課題名 産学福連携によるアップサイクル商品の企画・開発

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	井澤 幸	生活科学部・准教授	統括、アップサイクル商品の企画指導
		保田 倫子	生活科学部・准教授	フードロス削減に取り組むマルシェ出店者への学生ボランティア手配、調整
		川尻 姿穂	生活科学部・助手	アップサイクル商品の企画指導補佐

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業の主体である ulula (ウルラ) は 2022 年度から活動を開始し、産 (繊維商社: 瀧定名古屋) × 学 (椋山女学園大学井澤研究室) × 福 (就労支援 B 型事業者: 名古屋市身体障害者福祉連合会 (以下、名身連)) が協働でアップサイクル商品を企画・制作し、消費者に届ける活動を行っている。この活動は未利用繊維の有効活用と障害者の雇用創出、及び学生が実社会でデザイン思考を主体的に学ぶことを目的としている。

今年度の取り組みは、既存商品の継続販売による知名度アップに加え、新商品と新企画を追加し、製品の幅を広げ、この取り組みが持続する基盤をつくることを目指す。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

アクセサリやエコバッグ (あずま袋) といったアップサイクルの企画・制作の他、マルシェ出店の際、展示や什器等再利用が可能となるような、分解して持ち運び可能な屋台の制作を行った。

加えて、フードロスの削減に取り組むエシカルマルシェへの出店者へ、学生ボランティアの派遣を行った。

このように、本事業の特色は、未利用繊維素材による商品企画にとどまらず、フードロス削減の普及支援や国産材を利用したマルシェ店舗の木質化提案など、環境に配慮し持続可能な社会に向けた、幅広い活動を行っている点である。また、事業自体の持続可能性もテーマとしており、井澤研究室のメンバーを主体としつつも学年の入れ替わりを想定し、他学科や低学年の学生をサポートメンバーとして登録し、活動する体制をとっている。

3. 事業の成果 (600 字～800 字程度で記述)

1. アップサイクル商品の企画・制作

2022 年度の反省を生かし、親子連れマルシェの購入層に向け、髪留めを考案した。また、子ども用スモックはデザインの切り替え部分を減らし、製作を担う名身連の負担が少ないようなデザインに改良して 90 着製作し、愛知県内の幼稚園に納品した。2023 年度の新商品としては、エコバックとして利用できるあずま袋を企画した。従来のあずま袋と異なり、持ち手が長く、肩掛けが可能なデザインでありながらも、斜めに裁断した布を 2 色組み合わせることで、残布がでない仕様である。12 パターン、12 点を制作した。既にマルシェ等で販売済みの分もあるが、今後も継続して制作・販売する予定である。

2. 多様な販路と周知活動

2023 年度は年 4 回のエシカルマルシェへの参加の他、名古屋市の「環境デーなごや (9 月)」、愛知県の「SDGs AICHI EXPO 2023 (10 月)」といった自治体の環境イベントにも積極的に参加し、活動の周知を図った。

本取り組みはソーシャルプロダクツ・アワード 2024「ソーシャルプロダクツ賞」を受賞していることから社会的評価を得ているとともに、周知の深まりが今後期待できる。

3. 持ち運び可能な木製屋台の制作

マルシェ出店に際し、展示や什器について環境配慮型のプロダクトとすることとし、国産材を使用した分解・持ち運び可能な屋台を制作した。制作方法はデジタル工作機器である CNC 加工機を利用し、体力的なハンディのある女子学生でも加工可能な方法を取り入れた。また、端材を極限まで減らすようにデザインし、余った木材でハンガーや小物入れを制作した。

4. 学生への活動の波及

学生の関わり方について、幅広い密度とプログラムを用意し、できるだけ多くの学生が自分の興味や活動可能時間に合わせて、活動を選択できるようにした。生活環境デザイン学科の学生が担当した部分は、企画を検討するコアメンバー以外にもマルシェの店番担当、商品の制作を担うサポートメンバーの体制でおこなった。管理栄養学科が担う部分は、フードロス削減に取り組む企業のマルシェ出店のサポート、出店にさきがけ、フードロスの現状と企業の関わり方についてレクチャーを受けた。

4. キーワード (本事業のキーワードを 1 つ以上 8 つ以内で記載)

①産学福連携	②アップサイクル	③フードロス	④マルシェ屋台
⑤障害者雇用	⑥未利用繊維	⑦あずま袋	⑧スモック

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

・今後も継続して新商品の開発や各種イベントなどに出店を予定している。オアシス 21 で定期的に出店しているエシカルマルシェでは、周辺テナントとマルシェの関係性が希薄である点が、今年度の課題として浮かびあがった。来年度は、周辺テナントと連携し、テナントでの廃棄や未利用品を使った商品やワークショップの企画を検討している。

・周知に関しては、SNS での発信が弱い点もあげられた。学生の活動状況を継続的にかつ有効なタグ付けをし、発信していくことに力をいれたい。